

ふるさと奥尻通信

平成26年9月30日
奥尻町教育委員会発行
事務局：01397-2-3890

海洋研修センターと稲穂ふれあい研修センターにて無料配布しています。奥尻町役場ホームページからもダウンロードできます。

巻頭語

秋の空というのは変わりやすいものですね。一雨ごとに寒さが増すと言いますが、その通りでだんだん寂しくなってくる。けれどみなさん、秋の味覚を楽しみにしようではありませんか！

特集 奥尻の鹿

8月末の頃、対岸の上ノ国町の沖合で鹿が泳いでいるのを目撃され、全国ニュースとなっていました。上ノ国町役場総務課の広報チームが動画の撮影に成功し、広く知れ渡ったものです。

それを聞いて、「まさかよ！」(まさがせ！)と口をついた人も多かったのでは？けれど、奥尻島には、「稲穂岬から鹿が対岸へ泳いで逃げていった」という言い伝えがありましたので、さもありません。この言い伝えの信憑性が高まったのでした。

今からさかのぼること約140年前。明治初頭には、島に鹿はいませんでした。そこへ、当時の開拓史が産業振興を目的として、本島産の鹿を複数頭放したことがありました。明治11年のことです。その後、天敵がいなかったせいもあってか、10数年で数千頭規模にまで繁殖し、畑を荒らすなどして人間の生活をおびやかすようになります。しかし、ちょうどその頃北海道本島では、個体数の減少から禁猟政策がとられており、鹿は保護される立場でした。結果的に島民は獣害に悩まされ、時には密猟者が横行する事態も発生したことが、当時の新聞報道で読み取れます。



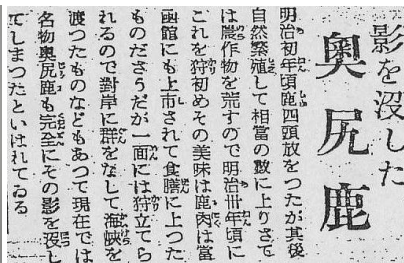
海に入った鹿(上ノ国町役場提供)



上ノ国沖を泳ぐ鹿(上ノ国町役場提供)



石器作りには鹿の角が最適



『函館毎日新聞』昭和9年12月頃

大繁殖した鹿はその後どうなったのか。実は悲しい末路が待っていました。明治33年に鹿猟が解禁となり、島内では吾も吾もと皆が猟銃を取って濫獲がはじまりました。同38年以降は、日露戦争後の払い下げ銃も出回った事もあってか、にわか猟師が増えて、相当数が仕留められたそうです。そして数年のうちにほとんど姿を消してしまったのでした。

稲穂岬で鹿が目撃された時期は定かではありませんが、明治末期までに個体数の激減が続いたとすれば、次第に島の北端に追い詰められていった鹿が、一番距離の近い稲穂岬から対岸の太田や太櫓方面に逃げていった光景を、地元民が目撃したのではないのでしょうか。

島の古老はこう言います。「一列になって泳いで行った鹿は、疲れれば、顔を前の鹿の尻に乗せて休み、先頭を代わる代わる交代しながら逃げていった。」と。その姿を想像する時、哀れみを感じると共に、人間が作り出した”不自然”な自然環境が、結局は人間社会をおびやかす、最終的には野生という自然界を抹殺してしまったのだと、思わざるを得ません。

先に島には鹿がない、と書きましたが、島内の青苗砂丘遺跡からは鹿角製の製品が見つかっています。これが果たして、島に生息した鹿の角なのか、島外から持ち込まれたものなのかは不明ですが、千年の昔から、島の人間と鹿の付き合いはあったということなのです。また、稲穂の資料館には、昭和31年に寄贈された奥尻産の鹿の角が展示されています。奥尻鹿の存在を示す貴重な資料と言えましょう。



奥尻の鹿について説明する山田伸一学芸員
北海道博物館移動展示会での講座 8月10日

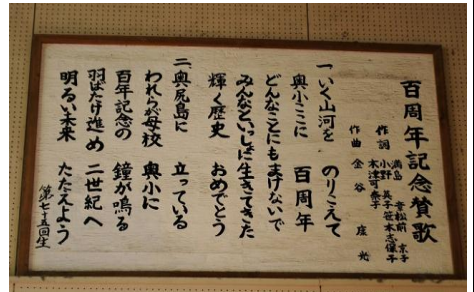


奥尻鹿の角 昭和31年2月2日 小柳福次氏寄贈

記念賛歌



奥尻島に立つて
百年の母校を
わが母校を
百年の母校を
輝く歴史を
どんな事にも
奥尻島に
いここにも
奥尻島に
いここにも
奥尻島に
いここにも
奥尻島に
いここにも
奥尻島に
いここにも



第75回生による卒業製作(旧奥小体育館)



記念式典の日 昭和57年7月11日

満島章、松前京子、小野英子、笹木志保子、木津可奈子作詩、金谷康光作曲の記念賛歌は2番構成からなります。奥尻小学校開校100周年を記念して作られたもので、当時6年生の児童が作詩しています。金谷は青苗小、奥尻小(57年当時在籍)などに勤務した教諭です。現在、開校から約130年経過し、この4月からは校舎も旧宮津小に移転しました。さらなる歴史を刻み、地域と共に存在する奥尻の学府として3世紀目(200周年)を目指して行ってほしいものです。現在(9月1日付)、同校は児童59名、学級数8の規模です。

月刊 奥尻のつり 9月号

沖では10kgを超えるブリが釣れ始めました。これからどんどん盛んになってくるでしょう。他にも地元でゴンタマグロと呼ばれている、クロマグロやタラも揚がっています。なかなか一般の口には入らないのだけれど…。サビキ釣りもアジやサバが大きく成長し、三枚におろして刺身にしても食べられそうなくらいです。同時に沿岸のクサフグも大きくなってきたので、エサ取りの厄介者も順調に育っているようです。11月にはいなくなしてほしいのですがね。テトラポットの隙間をねらう、穴釣りでは、30cm前後のソイと25cm前後のハチガラが釣れていますので、こちらの方が手っ取り早いなど。一方、真イカはさっぱり揚がらず、漁師の中には、太平洋へ向かう船もあり、遠くは浦河方面まで行っているとか。

昭和奥尻生活詩 21回

奥尻郡釣石尋常高等小学校一年生「詩集・海に生きる」より

電話の前で	吹雪の部屋で	電話室のやうなあ	ラヂオのやうなあ	何だか話してあるやうだ	青苗と話を切ると	電話を切ると切ると	きつと飲みたると	電報も来たら頼むら	もくもくツツと	暫くツツと	一カ月のツツと	だまされて聞かされて	吹雪の部屋で	郵便船の帰つて来た
西川貞行	あたら	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ	あ

NEAL 講習受講

無びやミにト環のス三ガれ
しま緊ユ、パ境でが段イまー
。し急ニ参スのす奥階ドしニ
た時ケ加な中。尻あをたー
。の。者どで奥にる養。ル
備備シとを遊尻てう成こー
ええヨのガんの開ちすれは
あにン上イだ豊講のるは
れつの手ドリりかさ初も
ばい取なす、なれ級自然
憂てりコるフ自たコで体
い学方際ツ然も、験が



シンプル・イズ・ベスト

たがで配りりA練れ会会し内
。屋、給ま、E、ま館場たで九月
の。かもしよD自しな。も
の。ごれ重たり操衛たど、青防
。の。ち。要。実。作。隊。で。島
。の。な。災。踐。実。の。消。避。内。の
。う。炊。要。害。的。演。装。防。難。各。人
。と。な。出。で。は。内。等。が。開。放。が。学
。し。訓。の。事。の。な。訓。わ。主

カレーの味は?

新米之記録(編集後記)

先日、江差のレストランで「鹿肉ハンバーグカレー」を食べたら、肉が赤くてギョッとしましたが、お腹は大丈夫でした。鹿と言えば、子どもの頃、クリスマスの外食で鹿肉のルーベを食べたのが思い出されます。食べ慣れず、不思議な味でした。93年来、鹿島アントラーズのファンです。今年は天皇杯でさっさと敗退、優勝戦線でも不安定な戦いで、大いに不満。

自衛隊五五周年式典

ち出行がリ地威行戦奏わ開空
やもす島のも山な闘れ庁自九月
んあるに搭一にど機蓄五衛二
感りと住乗般展がや麦和十隊
涙まいむ体公開行救打太五奥
でしう祖験開すわ助ち鼓周尻
あたサ母でさるれへのや年島
り。プをはれレまり実楽の分
まおラ乗、しの演隊式屯一
し祖イせ操輸ダたデ披の典基
た。母ズて縦送し。モ露演が地
。演飛士へ基神飛行の航



無縁島貸しポート 昭和46年